

平成 30 年度

事業所名 : グループホームゆうゆう北沢 A棟

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0372200337		
法人名	流通商事株式会社		
事業所名	グループホームゆうゆう北沢 A棟		
所在地	〒028-3323 岩手県紫波郡紫波町北沢字北沢2-1		
自己評価作成日	平成31年2月5日	評価結果市町村受理日	令和元年5月8日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kai.gokensaku.nhl.w.go.jp/03/i/index.php?act=on_kouhyou_detail_022_kani=true&kyosyoCd=0372200337-00&ServicCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 いわたの保健福祉支援研究会
所在地	〒020-0871 岩手県盛岡市中ノ橋通二丁目4番16号
訪問調査日	平成31年2月20日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>○訪問診療・訪問看護・訪問歯科と連携を密にし体調の維持に努めている。 ○入居者の自己決定を大切に気兼ねなく過ごせるようにサービスの向上に努めている。 ○敷地内に広い畑があり収穫を楽しめる。 ○近隣の小中学校や地域のボランティアとの交流がある。</p>

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>当ホームは紫波町の田園地域に立地しており、小中学生や地域ボランティアの来訪など、地域住民との連携や交流が活発に行われている。新たな理念を「利用者が自分らしく暮らすことを支援します」と定め、それを職員が日々のケアを通じて実践していくことに注力している。重度化や看取りにおいても取り組みを進め、協力医のサポートのもと、職員の経験値を深めている。災害対策にも積極的に取り組んでおり、火災や水害を想定した避難訓練を消防署の立会いを得て実施している。今後は夜間想定の訓練も検討しており、さらに地域住民との連携を深めたいとしている。</p>

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

【評価機関:特定非営利活動法人 いわたの保健福祉支援研究会】

平成 30 年度

事業所名 : グループホームゆうゆう北沢 A棟

2 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念が一人ひとりの行動指針に落とし込めていない。個人の力量に頼っているところが大きい。	ホームの理念を「利用者様が自分らしく暮らすことを支援します」とし、ホール等に掲示している。管理者は、職員がこの理念を理解し、実践に繋げていくことが大切であり、課題の一つであると認識している。	カンファレンスの機会等に、日常的なケアにおいて、各利用者が自分らしく感じられることは何かを具体的に話し合うなど、工夫をしながら、職員の理解促進が進むよう期待したい。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	日常的にという頻度ではないものの、慰問・ボランティアとの交流があり普通にお付き合いさせていただいている。	地域の清掃活動などに積極的に参加しているほか、ホームの敬老会などには近隣の住民が来訪している。地元の小学生や中学生も歌を披露したり、職場体験の場ともなっている。地域の女性ボランティアの訪問もあり、交流が活発である。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議のなかで話題として上る事はあるが、地域の人々に向けて活かしているとはいえない。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では入居状況・活動報告・事故報告を行っているが評価への取り組み状況についての報告は為されていなかった。今後報告してゆきたい。	民生児童委員のほか地元ボランティアの2人も委員として参加し、災害対応などがよく話し合われている。最近では、周辺でのクマの出没情報に関連して、隠れ場所になるので周囲の草刈りが必要との提案があり、直ちに対応した。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	町の担当者のもとへ出向くことが多数あり協力関係は築けていると考えている。	町の介護福祉担当者が運営推進会議に毎回参加しているほか、地域包括支援センターが主催する相談員連絡会議や町高齢者安心ネットワーク会議などの諸会議に参加しており、日常的な連携が図られている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	拘束に結びつくような現状はないが不適切ケアに繋がらない考え方を培う為に内部研修にて確認してゆきたい。	委員会はユニット会議等の機会に開催している。玄関の施錠は防犯のため夜間のみとしている。ベッド脇のセンサーマットは転倒リスクの高いA棟の4人のみ使用している。職員によるスピーチロックについても日常的に話し合い注意している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止関連について学ぶ機会を年に数回持っている。原因不明の痣を発見した際には原因を考え不自然なものではないか検討している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	一部の職員は理解しているが全体に周知するまでには至っていない。必要性のある利用者は現在のところないが今後でてくる可能性も有り学ぶ機会は必要である。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には内容や考え方も加えて解りやすい説明をこころがけ納得いただいた上で契約を交わしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	月1回町の介護相談員が訪問し入居者から意見・苦情・要望を聞く機会を設けている。家族面会時には話しやすい環境作りを心掛け訪問意見アンケートをご記入いただき意見や苦情を引きだす努力をしている。	ご家族には毎月「支援状況と連絡事項」のお知らせを送付し、家族意見を伺っているが、あまり要望等は出されない。面会時にもご意見アンケートを記入して頂くが、感謝の言葉が多い。利用者からは言葉で話されるほか、仕草などから読み取っている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者は意見を言いやすい雰囲気作りに努めているが充分とは言えない。	職員からは毎月のカンファレンスの場で意見などが出されるほか、年2回は個人面談を行い聴き取りの機会としている。寒さ対策として、職員からの提案で、浴室の仕切りをカーテンからパネルに変更している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	時間外労働は適正に行えており、有休休暇取得率もアップした。職員がやりがい、向上心を持ってはたらけるように管理者はマネジメント力をアップさせたいと考えている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	実践者研修・医療的ケア研修などの外部の研修に参加することができたが、日々のケアの向上につながる内部研修は十分に実施できていない。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協会の研修にて2名が同業者と交流できる機会を持ったのみで、その他の職員に対しては行えなかった。管理者は職員に対して動機付を行うと共に、研修の機会をタイムリーに公表して行かなければならない。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前調査で本人を含めた環境の調査のなかから要望の把握し安心を確保する為の関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	事前調査時・契約時には要望を伺いながら良好な関係作りができるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人・家族から状況を伺いながら他のサービスの利用も提案している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は家族や本人との会話から利用者理解に努め、生活場面では意向を伺いながら接しているが意思の疎通が難しくなるにつれ共同生活者であるという意識は低くなる傾向にあることは否めない。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族と入居者の関係をみながら関わり方を変えている。共に本人を支えたい家族とは連携できている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	頻度は少ないが馴染みの場所・人間関係の把握し関係維持の支援を意識している。	家族の他、友人が訪ねてくる方もいる。馴染みの理容店に出かける方がいる他、ホームには隔月で美容師が訪問してくれ新たな馴染みとなっている。盆や正月には実家を訪問する方はいるが、泊まらずに日帰りが殆どである。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	他入居者との関わりに必要な性を感じている 入居者は少なく職員との関わりが主であるが、時折入居者同士で気遣いの場面を見ることもある。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービスが終了すると関係性が閉じてしまうことが殆どであるが、運営推進委員として今後関わりを持つ事例もあった。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者の言葉から想いを察したり、うまく言葉にできない想いを生活歴やその時の行動や表情から汲みとるように努め検討している。	入居後に本人の「私の姿と気持ちシート」や「私の生活シート」を作成し、その思いや意向を把握している。これらを基に、日々のケアを通じて本人のお話や仕草等に留意しながら把握に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前に本人や家族からお話を伺い、入居後も折に触れ本人・家族・友人・ケアマネジャーから情報を集めるように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	記録に書きとめ職員間で共有に努めているが細かいところまでは難しいのが実際である。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人の日常生活での言動や意向を大切にしながら、家族や本人の希望を伺い介護計画を作成している。	計画作成担当者であるケアマネが計画原案を作成し、職員カンファレンスで検討のうえ、ご家族の了解を得て策定している。モニタリングは各職員が「カンファレンス意見シート」に記入したものを基に3か月ごとを基本に行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の暮らしや本人の言葉・エピソード等の記録とケアプランの実施状況を記録し申し送り確認しながら情報を共有し介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	現状で対応可能であればニーズには柔軟に支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源の十分な活用には至ってない。豊かに暮らせる様、管理者から職員・地域への働きかけが更に必要と考える。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医からは適切な医療を常に受けている。かかりつけ医との関係も十分に築けている。	町内の診療所に通院するほか、盛岡市内の診療所の訪問診療を利用する方が多くなっている。通院の場合は職員が同行している。歯科についても毎週の訪問診療があり、委託先の看護師も毎週訪れている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護ステーションから週1度の定期訪問を受けており相談助言をいただいている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院は殆どないが、入院時には利用者の支援に関する状況を医療機関に伝えている。また、退院直前から情報交換を行い退院後に利用者が安心して暮らせるように努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化が予想される方は早めに家族へ意向確認し、段階が進むにあたり更に話あいを重ねたが体調は維持できており終末期を数年経験していない為、不足している部分が明らかになっていない。	入居時には重度化や看取りに関する説明をご家族に行い同意を得ている。看取りは最近の3年間で5人となっており、協力医のサポートを得て、職員は経験を重ねている。これからは研修を重ね、職員の理解を深めることとしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	年1回の実施を目標としていた心肺蘇生訓練を本年度は実施できており翌年度以降も同じ頻度で行ってゆく。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回の火災訓練、水害時の移動訓練の計3回を行っているが、参加できていない職員がおり次年度は参加出来る様調整する予定である。	年に2回の火災想定訓練と1回の水害想定訓練を実施している。町のハザードマップでは浸水地域にはなっていない。夜間想定訓練が実施できていないが、特にA棟では車椅子使用者が5人と、うまく避難できるか課題と感じているとしている。	夜間想定訓練を行うことにより、具体的な課題が職員間で共有され、地域の協力の必要性等も認識できると思われる。取り組みを検討されるよう期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	日々の言葉掛けには意識をしているものの支援者側の問題で配慮が足りない場合もある。不適切な対応がみられた場合その場で注意することが必要であるが実施できないことが多い。	居室への入室時には必ず声掛けし、排泄誘導時には遠回しな言葉を使うなど、利用者のプライバシーに配慮したケアを心掛けている。スピーチロックとならないよう、言葉遣いに職員間で注意を払っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	思うように意思の表示が出来なかったり、言葉が通じないこともあるが、その方の想いをイメージしながら適切な支援を行うように努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的にはペースを尊重する意識はあるが職員の都合になっているときがあるので工夫や意見交換が必要である。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	定期的に馴染みの床屋や訪問美容を利用し整髪している。毎日のみだしなみは利用者の希望に合わせて支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	買い物・調理はほぼ全て職員が行っていたが今年度は利用者と一緒にいった機会は若干であるが増加した。	献立は職員が利用者の希望等も考慮して作成している。食材は主に地域の商店から購入している。食前食後の茶碗、テーブル拭き等は手伝える利用者と一緒にしている。ホームで畑も作っており、利用者も手伝って野菜作りを楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	飲み物を豊富に揃え好みを伺い提供している。十分な量に不足していても意思を尊重している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に声をかせさせていただき個人の能力に応じ見守りや介助を行い必要時には口腔内を確認し訪問歯科医師診療に繋げている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	安易なオムツ着用は行わずトイレ誘導を行っている。	2棟全体でオムツ使用者が1人、リハビリパンツ使用者が9人、布パンツ使用者が8人となっている。個々の排泄パターンを把握のうえ、適時にトイレ誘導しており、入居前に比して改善傾向が見られている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	繊維の多い食品を献立にしていることや、オリゴ糖入りのヨーグルトを毎朝提供している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	職員の都合で入浴時間を決めているが、希望が聞かれた際には柔軟に対応している。	週2回の入浴を基本としているが、個別の希望にも対応している。A棟では筋力低下のため8人の方がリフト浴となっている。同性介助の希望者はいるが、慣れるに従って改善する傾向にある。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	状況に応じ声をかけさせていただいている。休む際には、室温・明るさに配慮している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬情報は職員皆確認し、副作用がないか常に様子を見ている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	十分に支援できているとは言えず一人ひとりにあったアクティビティを考えて行きたい。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外出の機会が少ない年であった。ご自分から意思表示をされる方が少ない為、職員からさり気なく提案してゆきたい。	ホーム周辺は田園地帯であり、施設周辺の散歩を楽しんでいる。外出行事としてお花見や紅葉狩りに出かけたり、近隣の産直を巡ってドライブすることもある。そば店へ出かけて外食を楽しむこともある。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現金を持つ事の大切さは認識しているが家族の希望と本人の能力を鑑みて所持している利用者は現在はいない。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話や手紙のやりとりは自由に出来るように支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	照明や日光の明るさに配慮している。また、テレビの音量等の刺激に配慮しつつも特定の入居者に対しては側にスピーカーを置いている。	両ユニットとも床暖房となっており、食堂兼ホールは天窓があり、広く明るく温かい雰囲気となっている。壁面には切り絵やイベントの写真などが飾られている。利用者はテレビ体操や、歌唱、編み物などでくつろいでいる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	数名の利用者に自室以外の居場所があり、思いおもいに過ごしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	出来るだけ使いなれた馴染みのものをお持ちいただくよう提案している。	居室も床暖房となっており、ベッドとタンス、イス、小物入れが備え付けられている。利用者はテレビや家族写真などを持ち込み、自分好みの部屋を作っている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	必要に応じわかりやすい張り紙をしている。		